

第1章 平成20年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 平成20年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡として県内でも著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物が出土する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡内にまたがって位置している。

このような環境の下、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財を保護・調査・研究・活用する施設として、昭和53年に職員が配置されて以来、その重責を担い続けている。当館の平成20年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画の確認を行った後、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内が位置する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の立場から本発掘・予備発掘・立会の三種の方法で調査を厳密に行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設(職員宿舎等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、出来る限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する当館の現状の職員配置は、専任教員2名と教務補佐員1名、事務補佐員1名である。

上記の調査の結果で埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工事設計の変更等で現状保存が可能であるかどうかについて厳密な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報(本書)を刊行している。

上記の調査体制の下、平成20年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財の調査は、下記の通り本発掘調査3件、予備発掘調査4件、立会調査4件の計11件であった。

表1 平成20年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	本書掲載頁
本発掘	新教育研究棟設備関連工事	吉田	L-12~14 M-12・13	313	12月24~2月16日	23~42
	新教育研究棟新営工事	吉田	M・N-11・12	1,333	2月17日~4月24日	43~112
	動物医療センター改修Ⅲ期工事	吉田	T-19 S-20	250	1月5日~3月19日	113~202
予備発掘	経済学部研究棟改修工事	吉田	L・M-19	予26 立119	予備発掘 7月1~10日 立会 年1月23・24・31日 2月5日	5~8
	新教育研究棟新営工事	吉田	M・N-11・12	473	12月1~20日 2月17~3月27日	9~22
	医学部総合研究棟改修Ⅱ期工事	小串		9	7月9日~11日	216~219
	女子学生宿舎新営その他工事	常盤		24	5月19日~27日	220~223
立会	国際交流会館B棟改修工事	吉田	N-22 O-22 N-23	457	5月15・26・30日 6月17日、8月20・25日 9月2・3日、10月7日	203~205
	サッカーグラウンド防球ネット取設工事	吉田	H-21・22、I-21	8.5	2月18日	206~208
	正門改修等工事	吉田	Q-15、S-18	174	3月30日~4月1日	209~214
	教育実践センター廻りフェンス取設その他工事	吉田	K-19	2	2月27日	220

吉田構内(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在)

平成20年度の埋蔵文化財調査は吉田構内に集中し、その件数は本発掘調査3、予備発掘調査2、立会調査4を数える。

大学会館北隣で計画された新教育研究棟新営に伴う本調査では、大学会館新営工事に伴う発掘調査成果により、古墳時代から古代に所属する遺構群の検出が見込まれたが、遺構としては14～16世紀を主体とする掘立柱建物跡19棟、溝18条、井戸2基、土壇18基、不明遺構4基、柱穴約700基が確認され、吉田の地における中世の集落構造の一端が明らかとなった。この集落は吉田構内本部2号館敷地において確認された区画溝を有する屋敷跡とともに集落を構成したものと見られるが、当該地については近世に耕地化され、集落は現在の大学本部周辺の台地上に集約したものと推定される。さらに大学会館敷地において確認された埋没谷の延長部も確認された。この度の調査によって、この谷が13世紀を下限とする時期に埋没が始まり、16世紀中に埋没が完了することが推定されるに至った。この他、谷中



写真1 吉田構内航空写真（南東から）



写真2 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）
航空写真（東から）



写真3 白石構内（教育学部附属山口中学校）
航空写真（南から）



図1 山口大学吉田・白石構内位置図

にて縄文時代の低湿地型貯蔵穴が1基確認されたことは特筆に値する。吉田遺跡において初めての発見であるとともに、山口県内でも稀少な事例と言える。

動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査では、第1・第2調査区でそれぞれ大きな成果を得るに至った。動物医療センター北側空地にあたる第1調査区では、約200㎡の調査区面積に200基の柱穴が密集して分布することが確認された。出土遺物により、当集落は室町時代に造営され、16世紀内には消滅することが推測される。近世の絵図にも当地に集落は描かれておらず、歴史史料を裏付ける調査結果となった。一方、動物医療センター西側空地にあたる第2調査区は、49㎡という狭小な調査面積であるにもかかわらず、古代の埋没谷の左肩部が検出され、埋土からは墨書須恵器が3点を含む奈良時代から平安時代を中心とする土器とともに、多量の木製品が出土した。

経済学部研究棟改修工事に伴う予備発掘調査では、自然河川とともに落ち込み埋土を確認したが、所属時期等を明らかにすることは出来なかった。経済学部周辺の地下では複雑に自然河川が埋没しており、周囲に遺存する微高地の全貌も未だ明らかではない。今後とも詳細な調査が必要である。

立会調査では、サッカーグラウンド防球ネット取設工事において河川埋土とともに遺構埋土もしくは遺物包含層と見られる堆積層、ピットなどが確認されたが、いずれも詳細不明である。正門改修工事に伴う立会調査は、新教育研究棟新営工事に伴う発掘調査成果により急遽本発掘調査と同等の精度をもって実施したものであるが、多数の遺構を検出したものの、確認したピット群は概ね近世末以降のものと推測される。その他、教育実践センター廻りフェンス取設その他工事に伴う立会調査では、狭小な調査範囲ながらも縄文土器小片を含む土壌1基が確認された。

白石構内 (教育学部附属山口幼稚園: 山口市白石三丁目1-2、同山口小学校: 白石三丁目1-1、同山口中学校: 白石一丁目9-1所在)

平成20年度、埋蔵文化財調査を要する開発工事等は計画されなかった。

小串構内 (医学部、同付属病院: 宇部市南小串1丁目1-1)

予備発掘調査1件を実施した。医学部総合研究棟改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査では、総合研究棟(保健学科研究棟)東側空地に調査区を設け、現地表下約1.5m付近で旧耕土を確認した。小串構内北部域では、旧耕土下に近世の客土が存在し、以下に複数の遺物包含層が堆積するという共通の層序が確認されている。本調査周辺域も同様の堆積層が埋存するものと思われる。

常盤構内 (工学部: 宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎: 同上野中町2658-3所在)

予備発掘調査1件を実施した。工学部女子学生寄宿舎新営その他工事に伴う予備発掘調査では、女子寄宿舎建物が谷の埋め立て地に当たることから調査対象より除外し、現状の常盤寮周囲に新規布設される配管ルート予定地2地点を調査対象とした。調査の結果、第1調査区では掘削は造成土内にとどまり、第2調査区では現地表下約50cmで削平された地山を検出した。

光構内 (教育学部附属光小学校、同光中学校: 光市室積8丁目4番1号)

平成20年度、埋蔵文化財調査を要する開発工事等は計画されなかった。

平成20年度は特に吉田構内において重要な新知見を得るに至った。吉田構内は、近世から昭和の本学統合移転までその景観がほぼ変わらなかったものと推察されるが、今回構内北西～南に発達する台地2ヶ所(新教育研究棟予定地・動物医療センター北側空地)で中世集落を確認したことにより、農地拡大以前の農村集落構造の一端を明らかにすることができた。また、一昨年度に引き続き動物医療センター周辺地下に存する埋没谷を検出し、埋土から「主」「井」「安」などの文字が記された須恵器を確認したことは、今後当地に存在が推定される古代官衙を解明する上で貴重な資料となる。



図2 小串・常盤構内位置図



写真4 小串構内航空写真（南東から）



写真5 常盤構内航空写真（南から）



写真6 光構内航空写真（北東から）



図3 光構内位置図